

人工呼吸器管理患者の口腔ケア ～口腔ケアに対する看護師の意識調査～

キーワード：口腔ケアマニュアル・人工呼吸器関連肺炎(VAP)・意識調査

1病棟3階西

松木 蘭太郎 小林しのぶ 福本 従子 池上 砂織 倉田 町恵

I. はじめに

救命センターでは、気管内挿管、意識障害などによりセルフケアが困難な患者が多く、クリティカルな状況において、口腔内の観察・ケアは救命が優先され重要視されにくい傾向がある。しかし、人工呼吸器関連肺炎(VAP)の予防の為に口腔ケアは重要な看護ケアの1つとされている。現在、救命センターにおける口腔ケアマニュアルはあるが、十分に活用されておらず、ケアの内容は看護師個人の経験・判断に任されている。そこで、救命センター経験年数別による口腔ケアの実態を把握し、統一した口腔ケアを提供することを目的とし、無記名式質問紙調査を行った。

II. 方法

<対象> 研究メンバーを除く、救命センター看護師 33 名

<期間> H. 18. 4～H18. 12

<方法> 質問紙（無記名式）[0]により現状の口腔ケアに対する関心・方法・今後の課題についての調査を行った

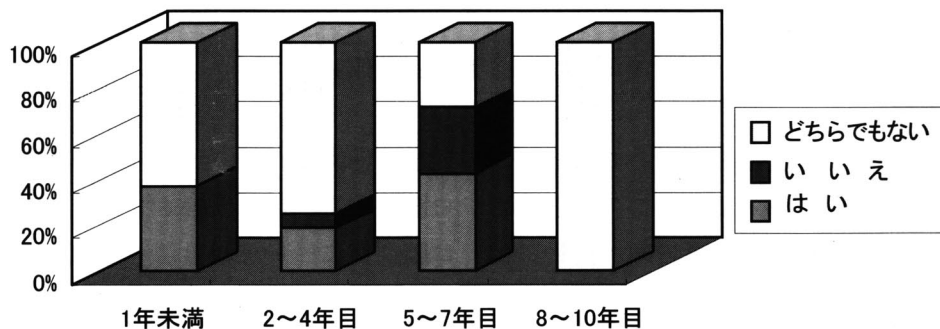
<倫理的配慮> 結果は統計処理を行い、個人が特定されないようにした

III. 結果・考察

対象者の救命センター看護師 33 名の平均年齢は 30.6 歳であった。救命センター経験年数は 1 年未満が全体の 24%、2～4 年目が 52%、5～7 年目が 21%、8～10 年目が 3%であり、センター平均経験年数は 2.8 年であった。

まず口腔ケアに関心があるかという質問では、「はい」と答えた人が全体の 94%であり、「いいえ」が 3%、「どちらでもない」が 3%であった。このことから看護師の口腔ケアに対する関心は高いということが言える。

次に口腔ケアが苦手かという質問では、全体で 27%が苦手意識を持っていた。経験年数が 1 年未満と 5～7 年目の看護師が苦手意識をもっている割合が多いことがわかった。（図 1 参照）



(図 1) 口腔ケアの苦手意識について

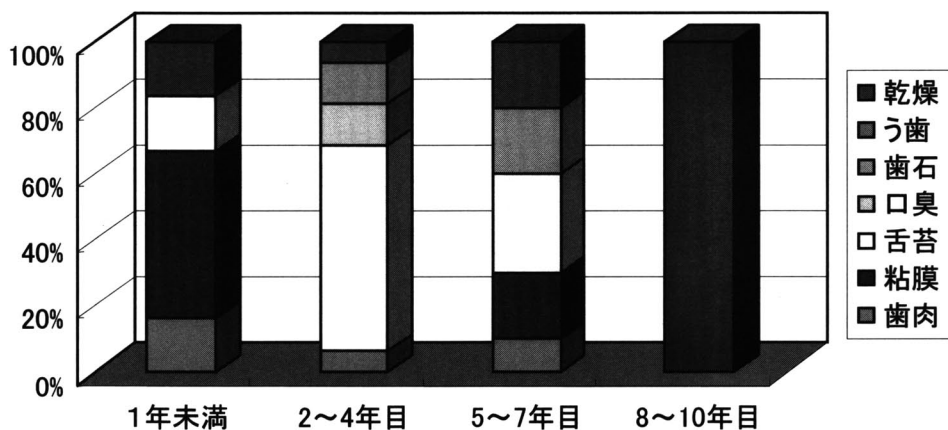
次に、どうやって口腔ケアを学んだかという質問に対し、全体の79%がプリセプターから学んだという結果であった。マニュアルをみて学んだという看護師は12%、参考書・研修から学んだという看護師が9%で、このことからマニュアルがあまり活用されていないという現状が再認識できた。

また、口腔ケアの目的については、1年未満、2～4年目、5～7年は清潔保持と答えた看護師が多く、8～10年目はVAP予防を1位としていた。清潔保持が1位となった理由としては、救急患者の特徴として、嘔吐・吐血・外傷による出血などにより、口腔内汚染が強いことが多く、それらの除去が感染予防の早期対処として行なわれている為だと考えられる。(図2参照)

	1位	2位	3位
1年未満	清潔保持	口腔内観察	
2～4年目	清潔保持	VAP予防	口腔内観察
5～7年目	清潔保持	VAP予防	
8～10年目	VAP予防		

(図2) 経験年数別口腔ケアの目的について

口腔ケア時の観察項目では、1年未満は口腔粘膜、2～4年目は舌苔、5～7年は舌苔と歯石、8～10年目は歯石を1位としていた。口腔内細菌は歯石1gに1000億いると言われており、VAPを予防するという意味では歯石へのアプローチが大変重要である。しかし、救命センターでの経験年数が短い看護師は歯石に着目しておらず、歯石除去がVAP予防につながるという知識が浸透していないと考えられる。(図3参照)



(図3) 経験年数別着眼点

現在の口腔ケアの取り組みについて十分だと答えた看護師は、はいが20%、いいえが14%、どちらでもないが66%であった。このことから、口腔ケアへの関心が高いにもかかわらず、不十分・どちらでもないと答えた看護師が多いのは、口腔ケアについての知識や技術の不足が考えられる。口腔ケアの目的・意義を十分に理解し適切な方法でケアを提供する為にも、今後の取り組みとして、勉強会の開催・他部門との連携体制の充実、新しい器具の取り入れ、医師も混じえて

方法の検討をしていく必要がある。

IV. 結論

- 看護師の大半が口腔ケアに高い関心をもっていた。
- 口腔ケアの方法をマニュアルからではなく、プリセプターより学んでいた。
- センター経験年数によって、口腔ケアの目的・観察項目にばらつきがあった。
- 現在の口腔ケアの取り組みについて、十分であると答えた者は20%であった。

また救命センターにおいて口腔ケアを徹底し継続していくには、常に口腔内環境に関心を持つことが重要であり、口腔ケアの重要性を理解した口腔ケアチームを立ち上げ、そのチームを中心とした、救急という特殊性を踏まえたマニュアルの作成・スタッフへの指導を行なっていくことが効果的だと考えられる。今後は、早急に救急独自のマニュアルの作成、勉強会を行い口腔ケアに必要な知識、技術の習得・伝達方法の確立が必要である。

参考文献

- 1) 岸本裕充：ナースのための口腔ケア実践テクニック，照林社，2002
- 2) 岸本祐充：最新!口腔ケア，メディカ出版，2002
- 3) 橋本良子：人工呼吸器関連肺炎(VAP)対策の取り組み，看護技術，12，p.47～50，2005
- 4) 荒川由香里：挿管患者の口腔ケア，日本歯科衛生士会学術雑誌，33巻2号 p.38～44，2005
- 5) 水野宏美：口腔ケアの意識調査，陶生医報，18号 p111～120，2002
- 6) 長澤静代：口腔ケアの徹底へむけての一考察，日本看護学会論文集(成人看護Ⅰ)，33号 p.164～166，2002
- 7) 西本せい子：意識障害患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査(総合看護)，33号 p.272～274，2002